

## 令和2年度西総合支援学校 学校評価実施報告書（後期）

### 1.「確かな学力」の育成に向けて

#### 重点目標

児童生徒が継続的にキャリアアップすることを目指し、個別の包括支援プランによる支援を行い、児童生徒の「生きる力（生活の質を高める力）」を育む

#### ①学校評価アンケートの結果について

保護者および教職員を対象に「学校評価にむけたアンケート」を実施した。各質問項目について、「重要度」と「実現度」を4段階で回答するようにし、7点・5点・3点・1点として集計した。集計結果の「実現度」が5.0以上であるということは、解答結果の平均が上から2番目の「だいたいできている」よりも良い評価であるということになる。実現度が4.0ならば、「どちらでもない」という評価を表している。

##### 【保護者：実現度 6 以上】

- ・学習に取り組みやすい状況づくりや支援がされているか。

##### 【保護者：実現度 5.5 以上】

- ・個別の包括支援プランに願いが反映されているか。
- ・個別の包括支援プランに基づいた授業実践が行われているか。
- ・分かる目標が具体的に示されているか。
- ・意欲的、主体的に取り組めているか。
- ・児童生徒のよりよい変容がみられるか。

##### 【教職員：実現度 5 未満】

- ・就学前から卒業後のライフステージを意識して取組を進めているか。
- ・研修会等に積極的に参加し、自己研鑽を行なっているか。

#### ②自己評価

##### 【分析（成果と課題）】

- ・確かな学力に関するアンケート項目について、保護者の実現度は、どの項目も5.5を超えており、「だいたいできている」という評価になっている。
- ・「児童生徒が学習に取り組みやすい状況づくりや支援はされているか」の項目については、保護者の実現度は昨年度と比較して0.2上昇し、6.0と高かった。今年度、各部でテーマを設定して定期的に学部研究会を実施し、目標達成に向けて、できる状況づくりや支援を検討しながら授業改善を行なってきた。また、「学校の様々な取組により、児童生徒のよりよい変容が見られるか」では、保護者の実現度は5.7であった。学校祭文化の部の保護者アンケートにおいても、「児童生徒が意欲的に、主体的に取り組めるように工夫されていた」等の項目で、高い結果であった。今後もできる状況づくりや支援を工夫しながら、子どもたちが意欲的、主体的に取り組む姿や成長する様子を保護者と共有していきたい。
- ・教職員の実現度もほとんどの項目で5.0を超えており、2項目が5未満であった。「校内外の研究会・研修会等に積極的に参加し、自己研鑽を行う」の実現度が4.5であったことは、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、会場での集合研修が中止となつたことが影響したと思われる。2月には、開催方法を工夫しながら「校内研究報告会」を実施し、学部を越えて取組の情報交換を行なった。教職員のニーズに応じた研修の機会が必要である。
- ・「就学前から卒業後のライフステージを意識して取組を進める」という項目が4.6であった。長期的・将来的なヴィジョンを持ち、ライフステージの変化を意識して取組を進める必要がある。

### 【分析を踏まえた取組の改善】

- ・全体では一定の評価を得ているが、リモート研修等も含めて、教職員が必要とする研究会・研修会に参加し、効果的に専門性の向上を図るためにシステムを整備する必要があると思われる。
- ・今後も継続的キャリアアップを意識して取組を進め、児童生徒が適切な状況づくりや支援があれば「できる」存在であるということを前提に、授業改善を行なっていく。

### ③学校関係者評価（第3回学校運営協議会）

- ・感染症対策を行ないながら、新しいことにどんどん取り組んでいることを知って、学校に元気をもらった。
- ・今年度のPTAフェスティバル（オンライン版）において配信された学校紹介では、プログラミング学習の様子が素敵な動画で紹介されていてわかりやすかった。プログラミング学習の取組にとても興味を持った。
- ・意思表出に関する取組を参考にしたいと思う。
- ・就学前、卒業後もつながるという視点を大切にしていきたい。

## 2.「豊かな心」の育成に向けて

### 重点目標

学校や地域の中でできる成功体験を積み重ねることにより、自己の将来に夢や希望を持ち、自らの人生を切り拓こうとする力を育てる

### ①学校評価アンケートの結果について

#### 【保護者：実現度 6 以上】

- ・教職員の児童生徒に接するときの言葉遣いや態度は適切か。

#### 【保護者：実現度 5.5 以上】

- ・児童生徒は自分なりの方法で挨拶をしているか。

#### 【教職員：実現度 5.5 以上】

- ・児童生徒は自分なりの方法で挨拶をしているか。
- ・コミュニケーションをより豊かにする取組が行なわれているか。

#### 【教職員：実現度 4.5 未満】

- ・性と生に関する学習に取り組んでいるか。
- ・リサイクルや環境に関する学習に取り組んでいるか。

### ②自己評価

#### 【分析（成果と課題）】

- ・保護者の回答は、「教職員の言葉遣いや態度」については、実現度は6.1で、昨年度より0.3上昇している。教職員アンケートにおいては、実現度に比較して重要度が高く、重要であるが徹底が図れていないと感じている教職員が多いことがうかがわれる。
- ・「性と生に関する学習」（教職員）については、重要度に比較して実現度が低いことから、実践の充実を図る必要がある。

#### 【分析を踏まえた取組の改善】

- ・「教職員の言葉遣いや態度」については、教職員で話し合う機会を持ちながら、日々の実践の中で一人一人の教職員が意識して、継続して取り組んでいく必要がある。
- ・「性と生に関する学習」（教職員）については、研究授業や全体研修会、「保健だより」等で取り上げている。また、高等部では副読本を活用した学習を行なっている。このように、取組を進める方向性はみられることから、学んだことを指導計画に反映させて、実践を積み重ねることが必要である。

### ③学校関係者評価（第3回学校運営協議会）

- ・高等部の和太鼓演奏や、中学部のウッドデッキで活用できるベンチ制作が素晴らしい。ウッドデッキのベンチについては、地域との連携等、今後の活用方法に期

待している。

- ・「心の絵」展に出品された作品が、ウッドデッキで光を燐燐と浴びながら飾られているのを鑑賞することができた。全ての作品が素晴らしいかった。様々な作品展が開催されることで、注目されることはよいことだと思う。

### 3.「健やかな体」の育成に向けて

#### 重点目標

自分の体と心に気づき、環境とのかかわりの中で、より健康で安全な生活を送ろうとする意欲と技能を育てる

#### ①学校評価アンケートの結果について

##### 【保護者:実現度 6 以上】

- ・日常の健康観察は十分に行われているか。
- ・発作・病気等の緊急時に組織的対応をしているか。
- ・施設等の安全は保たれているか。

##### 【保護者:実現度 5.5 以上】

- ・児童生徒の基本的生活習慣は確立されているか。

##### 【教職員:実現度 6 以上】

- ・日常の健康観察を確実に行なっているか。
- ・発作・病気等の緊急時に組織的対応ができているか。

#### ②自己評価

##### 【分析(成果と課題)】

- ・保護者の実現度はいずれも5.6を超えており、「だいたいできている」という評価になっている。全体的に上昇傾向にあり、昨年度と項目ごとに比較すると0.1~0.3上昇、もしくは同じとなっている。
- ・「日常の健康観察は十分に行われているか」では、保護者は6.3、教職員は6.4、「発作・病気等の緊急時に組織的対応ができているか」については、保護者は6.4、教職員は6.2であり、いずれも実現度が高い。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「感染症対策マニュアル」を作成し、保護者との連携を大切にしながら、健康観察・体調管理、手洗い・消毒、換気・社会的距離等、様々な取組を行なってきた。
- ・「災害・緊急時の対応」(教職員)については重要度が6.7であり、防災への意識の高さがうかがえる。今年度は、感染症予防のため実施方法を工夫しながら、避難訓練、緊急時シミュレーション等に取り組んだ。

##### 【分析を踏まえた取組の改善】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に関しては、今後も必要な取組を組織的に行なっていく。保護者や地域との連携を深め、子どもたちの健康を守ることに尽力しながら、教育活動を行なっていく。
- ・避難訓練や緊急時シミュレーション等の取組においては、実施後に検討した課題を今後に活かしていく。災害・緊急時の対応に関して共通理解を進めながら、役割分担を明確にして周知を図る。
- ・児童生徒に対する深い理解と、それに基づく指導を推進するために配置した医療福祉コーディネーターにおいては、教職員へのコンサルテーションで効果が見られている。教職員と連携した取組を今後も続けていきたい。

#### ③学校関係者評価（第3回学校運営協議会）

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行ないながら、様々な教育活動に取り組むことができるよう、実施方法を工夫していると思った。その中の、新たな発見もあった。

## 4.学校独自の取組

### 重点目標

地域や保護者との連携を深め、学校と地域の双方向の援助による新たな「地域」の創造を図るとともに、地域の障害のある児童生徒、保護者、教員のキャリアアップを支援する「育」支援センターを機能させる

### ①学校評価アンケートの結果について

#### 【保護者:実現度 6 以上】

- ・教職員と保護者との連携は取れているか。
- ・個人情報の管理に注意が払われているか。
- ・学校預り金は適正に執行されているか。

#### 【保護者:実現度 5.5 以上】

- ・地域と連携し、地域資源を活用した取組を進めているか。
- ・学校の取組は、家庭や地域での生きる力につながっているか。
- ・学校の取組が情報発信されているか。

#### 【保護者:実現度 5 未満】

- ・学校運営協議会の取組（芝生まつり等）の取組内容を知っているか。

#### 【保護者:実現度 4.5 未満】

- ・育支援センターの取組内容を知っているか。

#### 【教職員:実現度 5.5 以上】

- ・教職員と保護者との連携は取れているか。
- ・学校の取組が情報発信されているか。
- ・学校預り金は適正に執行されているか。
- ・事務関係書類は適切に処理されているか。

#### 【教職員:実現度 5 未満】

- ・地域と連携し、地域資源を活用した取組を進めているか。

### ②自己評価

#### 【分析(成果と課題)】

- ・今年度、教職員アンケートに新項目として「学校の取組は、家庭や地域での生きる力につながっているか」をあげた。今年度は重要度が6.5、実現度が5.2であった。
- ・今年度、「地域連携、地域資源を活用した取組」で教職員の実現度が4.8であったことは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、取組が行われなかつたことが影響したと思われる。
- ・「専門職（ＳＴなど）の活用」では、保護者の実現度は昨年度より0.2上昇して5.0となつたが、重要度が高い。今後も優先課題の一つとして取組を進める必要がある。

#### 【分析を踏まえた取組の改善】

- ・学校の取組を、家庭や地域での生きる力につなげていくという視点をもって、様々な取組を進めていきたい。
- ・感染拡大防止の対策とともに、地域と連携する取組の実施方法を工夫する必要がある。
- ・専門家の活用のあり方は多様であり、教職員が専門家から指導に関する助言や示唆を受けて日々の教育実践に反映させていくことも「専門家の活用」である。このような広義での専門家活用の実態やそれにともなう子どもたちの成長の様子を、保護者、教職員に伝わるような情報発信の必要がある。

### ③学校関係者評価（第3回学校運営協議会）

- ・地域との連携した取組に関して、できることで協力していきたいと思っている。
- ・学校の取組を地域の広報誌に掲載した。地域にも、学校の特色のある取組を広めていきたい。広報誌等の掲載方法も工夫して、地域に伝わるようにしていきたい。